

計画全体の概要

上位計画と関連計画

国・県における住まい・まちづくりの方向

- (1) 住生活基本計画（平成 23 年 3 月）
- (2) 愛知県住生活基本計画（平成 24 年 3 月）

豊川市の上位計画・関連計画

- (1) 第 5 次総合計画
（基本計画改訂：平成 23 年 3 月）
- (2) 都市計画マスタープラン（平成 23 年 3 月）

豊川市の概況

豊川市の概況

- 人口は平成 22 年国勢調査では 181,928 人で平成 27 年にはピークを迎えるとともに少子高齢化が確実に進行
- 世帯分離は進んでおり、世帯数は増加傾向
- 市街化区域が 21.7%で、そのうち住居系用途地域が 61.3%
- 土地区画整理事業の施行済み 23 箇所、施行中 3 箇所（1,242.5ha。市街化区域の 35.7%）
- 鉄道駅が 19 駅

住宅・宅地の概況

- 総住宅数は 72,240 戸（平成 20 年）。新築住宅着工戸数は 1,700～1,800 戸／年
- 所有形態では「持ち家」、建て方では「一戸建て」がともに約 70%
- 旧建築基準法（昭和 56 年以前）により建設された住宅の割合は 32.7%
- 県営住宅 10 団地、1,440 戸、市営住宅 27 団地、1,205 戸

アンケート調査（市民対象）の結果のまとめ

- 住宅や周辺環境の総合評価：「満足」「やや満足」の合計が約 70%
- 子育てや高齢者の居住にかかわる住宅・周辺環境の満足度では、「買い物・通院などの日常生活の便利さ」、「公園・保育施設などの子育て環境」、「耐震性・耐火性」がそれぞれ 50%以上、「犯罪の心配がない安全な環境」、「バリアフリーへの対応」が 50%未満
- 豊川の魅力を増す方向で多いのは「病院や福祉施設に便利」、「生活環境全般が良好」、「買い物に便利」

ヒアリング調査結果（団体・事業者等）

- 市民の戸建て持ち家志向が強い
- 豊川市内にはアパートが増加したが、新築空室が目立つ
- 高齢社会へ対応した住宅づくり、戸建て空き家対策、戸建て住宅建設等のための用地の確保、定住対策などを要望

住まい・まちづくりのための政策課題

P 7

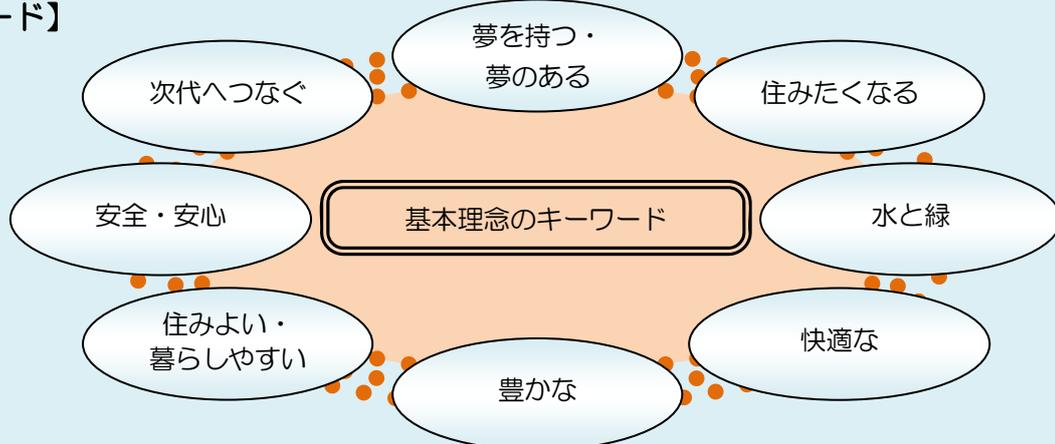
1. **都市の持続性を高めるために定住人口の確保**
定住人口の確保／世帯分離に対応した良質な住宅供給
2. **高齢者や障害者、子育て期の家族が住みやすい環境の形成**
安心な居住／住宅のバリアフリー化の促進
／子育て世代が安心して住めること／多世代の居住と交流
3. **セーフティネットとしての住まいの確保**
老朽市営住宅の建替／民間賃貸住宅のストックの活用
4. **安全な環境確保のための防災や防犯などの対策**
大規模地震等に備えた住まいづくり／防犯、交通安全の推進
5. **良好なストックの形成と活用**
増加が予想される空き家対策の検討／都市機能の利便性向上や居住地としての魅力づくり
／ライフステージに応じて住み替えが円滑にできるしくみづくり
6. **水と緑の環境を活かした質の高い住環境の形成**
自然、文化の魅力と都市魅力の創出／地区の特性に応じた良質な住まい・まちづくり
／良好な環境や景観の住宅地の形成
7. **多様なライフスタイルを実現できるまちづくり**
環境負荷が低い住宅や住み方の普及／豊川ならではのライフスタイルの実現の支援
8. **市民、事業者とともに進める住まい・まちづくり**
住宅市場の活性化／住まい・まちづくりのための協働の取り組み

基本理念

P 13

第5次総合計画
都市計画マスタープラン
新市民憲章

【キーワード】



【基本理念】

次代へつなぐ 心豊かで安全・安心して暮らせるまち
～みんなでできずく 自然とまちが調和した豊かな住まいづくり～

基本理念（再掲）

次代へつなぐ 心豊かで安全・安心して暮らせるまち
～みんなできずく 自然とまちが調和した豊かな住まいづくり～

基本目標

P 14

重点プログラム

P 39

◆喫緊の課題

- 強く求められる防災対策
- 少子高齢化、人口減少への対応

災害にも安心プログラム

◆考え方

大規模な地震対策、応急措置や復旧対策について、市民や事業者、行政等が長期に地道に取り組む

- ◆3つの大きな取り組みの展開（下図①、②、③）
今までの事業を組み合わせ、新規事業も展開

◆展開方針

3つの取り組みを発展させながら螺旋を描くように各取り組みをつなぎ、継続的な改善を繰り返す



重点プログラムの主要施策と展開方針

- 1. 誰もが安心して暮らせる住まい・まち
◆地震対策、防災・防犯、市営住宅

目標指標

P 23

- ・住宅の耐震化率
- ・市営住宅の改築率

- 2. ライフステージに応じた暮らしていただける住まい・まち
◆子育て支援、高齢者の居住支援、多様な居住ニーズへの対応

目標指標

P 27

- ・60歳以上が住みよいと回答した割合
- ・コミュニティバスの利用者数

- 3. 環境と共生し快適に暮らし続けられる住まい・まち
◆ストックの活用、良好な住宅の供給、環境共生

目標指標

P 33

- ・住宅や周辺環境の満足度
- ・太陽光発電を行っている住宅数

- 4. 地域特性を活かし受け継がれる住まい・まち
◆地域固有の資源活用、コミュニティ再生、多様な主体との協働

目標指標

P 38

- ・豊川市に住む魅力を感じる市民の割合
- ・町内会の加入率

基本方針

P 14

施策

P 19

計画推進の考え方

P 43

1. 地震など災害に備えた住まい・まちづくり
2. 犯罪に強い住まい・まちづくり
3. セーフティネットとしての市営住宅の整備と居住支援

施策 1-1 住宅・住宅地の耐震化促進

施策 1-2 地域における防災・防犯対策と安全確保の推進

施策 1-3 市営住宅の整備と居住支援

1. 快適に安心して子育てができる環境づくり
2. 誰もが安全・安心に過ごすことができるまちづくり
3. 新たな暮らし方ができる住まいづくり

施策 2-1 快適に子育てができる環境整備

施策 2-2 高齢者や障害者が暮らしやすい環境整備

施策 2-3 人にやさしいまちづくりの推進

施策 2-4 ライフステージに応じた居住支援

1. ストックを有効活用した住まいの提供
2. 快適に住み続けることができる戸建て住宅の供給
3. 環境にやさしい住まいとライフスタイルの普及

施策 3-1 まちなか居住の推進

施策 3-2 ストックの改善と居住の促進

施策 3-3 良好な住宅地の形成促進

施策 3-4 環境にやさしい住宅の整備

1. 豊川らしさを活かした住まい・まちづくり
2. 快適な居住を支えるためのコミュニティの再生
3. 事業者、市民活動団体、地域が連携した住まい・まちづくり

施策 4-1 景観形成と水と緑のうるおい創出

施策 4-2 豊川の居住地としてのブランド形成

施策 4-3 まちづくり活動の育成とコミュニティの再生

施策 4-4 協働による住環境整備と居住支援

計画の進行管理

1. 施策の推進
2. 重点プログラムの推進
3. 計画の見直し

計画の推進体制

1. 市民の役割
2. 事業者の役割
3. 行政の役割